



## 水産情報速報版

H18.12.8 1221

静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行=指導部漁政課  
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

### 1. 県漁協組合長会議・実行委員会を開催 県等への要望事項取りまとめる

本会では11月27・28日の両日、県水産会館において、県内漁協長ほか系統団体等の役員の出席を得て、平成18年度県漁協組合長会議を開催しました。

始めに、本会西川会長の挨拶に続き、信漁連経営改善への取り組みについて 県下の漁協再編整備について、本会並びに県信漁連より夫々説明がされた後、全体会議が行われました。引き続き、「漁協組織再編について」をテーマとして、東・西地区に分かれ分科会形式による意見交換が行われました。

翌28日は、西川会長が議長となり議事進行を行い、前日の分科会報告が行われ、漁協系統の再編整備については喫緊の課題として、次の3つの対策を自らが実行していくことが決議されました。

県下信用事業業務の円滑な実施を可能とするため、県信漁連に対する増資等の支援策を積極的に行う。

従来の概念にとらわれず、県下漁協が一丸となって自らの漁協合併を積極的に推進することとし、伊豆、沼津、駿河湾、西部の4地区合併構想を平成19年3月末までに承認し、平成20年3月末までの合併実現に向けて取り組む。

このような系統組織の取り組みに向けて、県当局の全面的な支援を要請する。

また、平成17年の要望事項に対する措置状況、平成18年度水産予算要望に対する措置状況について報告説明の後、平成18年度県漁協組合長会議要望事項及び、平成19年度県水産予算編成に対する要望事項(下記の4課題)について協議が行われ、夫々承認されました。

県漁連等水産関係団体が行う指導・委託事業に対する支援について

二枚貝集出荷施設建設に係る補助金の確保について

漁業生産の変動を緩和するための経営安定施策創設について

漁協等経営基盤強化対策事業(信用事業運営効率化推進事業費)の交付について

更に、特別決議として、次期参議院選挙県下漁協系統組織の統一候補者として、前兵庫県漁連会長丸一芳訓氏と県議会議員牧野京夫(たかお)氏を夫々推薦し、支援していくことを決議しました。組合長会議に引続き、同会議の実行委員会が開催され、組合長会議で決議された平成18年度漁協組合長会議要望事項、平成19年度県水産予算編成に対する要望について審議し、いずれも承認されました。

これらの決議事項は11月30日、自民党県連農林水産対策連絡協議会に対して陳情を行った他、後日改めて、県当局や県議会水産議員に陳情し、具現化に取り組んでいきます。

### 2. 国内漁獲生産量、2017年には500万トン割れ

水産庁の試算によると、養殖を含む魚介類の国内漁獲生産量が2017年に470万トンと、1950年代後半以来、60年ぶりに500万トンを割り込む見通しであることが、12月3日明らか

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

になりました。これは、ピークの1984年(1,206万トン)の半以下の水準で、イワシなど水産資源の減少や、高齢者や後継者難による漁業従事者の減少が、追い打ちを掛けているようです。国内の魚介類供給量も減少し、17年には1人1日当たり86gと、60年代後半の水準に落ち込む見込みです。供給量は、戦後上昇傾向が続きましたが、肉類を多く消費する欧米型食生活の普及で、95年の107gをピークに漸減が続いています。

試算は、漁業を「マグロ延縄」「カツオ一本釣」など約80種類の漁法に分類した上で、夫々の漁獲量動向に基づき、今後の全体の変化を推計しました。衰退が目立つのは沖合漁業で、80年代には700万トン近くに上りましたが、近年は200万トン台で推移し、特にマイワシが最盛期の400万トン以上から、100分の1前後の水準に激減している影響が大きくなっています。水産庁では、試算を基に政策指針「水産基本計画」を5年ぶりに見直し、来年3月に策定する予定で、漁業の生産・流通拠点の整備や消費者の魚食普及などを通じ、漁獲量と消費量の同時回復を目指します。

### 3. 浜名湖体験教室を開催 浜名湖サポーターズクラブ設立を目指す

県水産振興室では、浜名湖の豊かな恵み(水産資源・自然環境・景観・文化)を見て聞いて体験することにより、県民の貴重な財産である浜名湖について理解を深めていただくため「浜名湖の“海の恵”探検隊」を開催し、県民参加型の「浜名湖サポーターズクラブ(仮称)」設立に向けて準備を進めています。

探検隊の活動は11月26日、「えっ!遠州灘に天然トラフグ」をテーマに1回目が開催されており、12月2日には「冬でも熱いぜアサリちゃん」をテーマに、浜松市など県内各地から親子50名が参加し、2回目となる活動が開催されました。

参加者は船に乗って浜名湖内のアサリ漁場やツメタガいの駆除実験場所、村櫛漁港(アサリの水揚げ場)を見学し、アサリのみそ汁、ツメタガいの佃煮を試食するなど、アサリについて学びました。また、第3回は来年2月3日に「冬の名物、カキとからっ風」をテーマに実施しが予定され、現在参加者を募集しています。

浜名湖は、魚族の宝庫であり、アサリ、ウナギ、シラス、クルマエビ、カキ、ノリ、カニ類のほか、近年は遠州灘の天然トラフグも注目を集めています。一方最近では、自然環境の悪化や水産資源の減少が進み、種苗放流、アサリの天敵ツメタガいの駆除など保護活動を進めているものの、漁業就労者の減少や高齢化などの問題も抱えています。

「サポーターズクラブ」は、こうした状況を背景に設立が発案されたもので、来年2月には事業計画が固まる予定で、今後の事業展開に期待が寄せられます。

### 4. 県TAC(漁獲可能量) 10月末漁獲実績を発表

県ではこのほど、TAC対象魚種の10月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、サバ類はTAC数量12,000トンに対し10,837トンで消化率90.3%となり、TAC数量が若干量の魚種では、マアジ1,988トン、マイワシ604トン、スルメイカ358トン、サンマ29トンの漁獲量となりました。

### 5. 会議・日程(12月12日(火)~12月25日(月))

- 既報分省略 -

12月18日(月) 県漁連=ふじのくにしずおかフードフェア (東京・時事通信会館)

12月22日(金) 県桜えび漁業組合=役員会 (県水産会館)

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう